

気候情報

2018年1月の日本の天候

- 東・西日本で気温が低かった
- 東・西日本日本海側で降雪量が多かった
- 下旬に北・東日本太平洋側で大雪となった

1月の天気概況

東・西日本では、気温の変動が大きかったが、強い寒気が流れ込みやすかったため、月平均気温が低く、東・西日本日本海側の月降雪量は多かった。冬型の気圧配置が強まる時期と低気圧の影響を受けやすい時期があったため、降水量は北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本で多かった。沖縄・奄美は、寒気や湿った気流の影響で、降水量が多く、月間日照時間が少なかった。

上旬：日本付近を低気圧が頻繁に通過し、北日本や東日本日本海側を中心に曇りや雪または雨の日が多く、東日本太平洋側や西日本でもまとまった雨となった日があった。また、北日本では暖かい空気が流れ込みやすく、寒気の影響を受けにくかったため、気温がかなり高かった。9日からは冬型の気圧配置が強まり、日本付近は西ほど強い寒気が流れ込んだため、沖縄・奄美では気温が平年を大きく下回った。

旬平均気温は、北日本ではかなり高かった。東・西日本と沖縄・奄美で平年並だった。

旬降水量は、北日本日本海側、東日本太平洋側、西日本で多かった。北日本太平洋側、東日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だった。

旬間日照時間は、北・西日本と東日本日本海側で少なかった。東日本太平洋側と沖縄・奄美では平年並だった。

中旬：中旬前半は、強い冬型の気圧配置となり、西日本を中心に強い寒気が流れ込んだ。東日本日本海側を中心に大雪となった。中旬後半は移動性高気圧に覆われる日が多く、全国的に晴れて、気温が高い日が多くなり、西日本中心に気温の変動が大きかった。

旬平均気温は、北・東日本で高かった。西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

旬降水量は、東日本と西日本太平洋側で多かった。北日本と西日本日本海側、沖縄・奄美では平年並だった。

旬間日照時間は、東・西日本太平洋側でかなり多く、北日本と東日本日本海側、沖縄・奄美で多かった。西日本日本海側では平年並だった。

下旬：22日から23日にかけて低気圧が本州の南岸沿いを発達しながら通過したため、関東甲信地方や東北太平洋側では大雪となった。東京では22日の積雪が23cmとなり、2014年2月以来4年ぶりに積雪が20cmを超えた。その後非常に強い寒気が日本付近に流れ込み、東・西日本中心に気温が平年を大きく下回った。寒気の流入後は日本海側では雪の日が続き、暴風雪や

大雪となったところもあった。北日本日本海側の旬間日照時間は平年比54%となり、1月下旬としては旬の統計を開始した1961年以降で最も少ない記録となった。太平洋側では晴れの日が多かったが、雪雲が流れ込み積雪となるところもあり、26日には名古屋で3cmの積雪となった。沖縄・奄美では低気圧や寒気の影響により、曇りや雨の日が多かった。

旬平均気温は、東・西日本でかなり低く、北日本で低かった。沖縄・奄美では平年並だった。

旬降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、北日本で多かった。東・西日本では平年並だった。

旬間日照時間は、北・東日本日本海側でかなり少なく、北日本太平洋側と沖縄・奄美で少なかった。東日本太平洋側と西日本では平年並だった。

1月の気候統計

月平均気温：東・西日本で低かった。北日本と沖縄・奄美では平年並だった。

月降水量：北日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本、沖縄・奄美で多かった。北・東日本太平洋側では平年並だった。

月間日照時間：北・東日本日本海側、沖縄・奄美で少なかった。一方、東・西日本太平洋側で多かった。北日本太平洋側と西日本日本海側では平年並だった。

(気象庁観測部情報管理室)

1月の記録（1位更新なし）

2018年1月の平年差（比）図

